

自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの検討(19)

—小学校中・高学年：他者とのかかわりの促進を目的としたプログラム作成の工夫—

The care and education program development that support diversity and individual initiatives of children with autism spectrum disorder: Encouraging schoolchildren to make the relationship with others

○藤田恭未¹・近藤礼菜¹・杉山健¹・遠田勇介¹・松元佑³・竹内謙彰²・荒木穂積¹

○Fujita Kumi, Kondo Ayana, Sugiyama Ken, Toda Yusuke, Matsumoto Yu, Takeuchi Yoshiaki, Araki Hozumi

(¹立命館大学大学院人間科学研究科・²立命館大学産業社会学部・³立命館大学大学院社会学研究科)

(¹Graduate School of Human Science, Ritsumeikan University / ²College of Social Sciences, Ritsumeikan University / ³Graduate School of Sociology, Ritsumeikan University)

Key words: 仲間関係, 療育プログラム, 他者意識

目的

自閉症スペクトラム障害のある子ども(以下、ASD児とする。)は、社会性の問題を中核とするために、「人の関係」に躓きを覚えやすいと言われている。そのため、何かに参加することやだれかと共有することに対して困難さを抱くことが多い(日戸・藤野, 2017)。本グループは、学童期後半のASD児を対象として療育プログラムの開発に取り組んでおり、2019年度は、他者とのかかわりの促進をねらいとした活動を行った。本研究では、設定遊びの中で「話し合い(作戦会議)」の時間枠を設定し、参加児がどのように他者を意識してかかわりを構築できるかの検討を行うことを目的とした。

方法

2019年4月～2020年3月の間、本療育プログラムに参加した5名のうち2名を対象とした。療育プログラムは月1回、120分の活動であった。分析対象月は、他者との関わりを意識した10月、1月、2月とした。メインプログラムの内容とねらいを表1に示した。

表1 分析対象となった各月のメインプログラム内容とねらい

月	項目	内容	ねらい
10	かばちや競争	棒に挟んだ風船を二人で運んで競争する	体を使った他者とのかかわり
1	福笑い	目を瞑った人に指示を出し顔を作る	指示を出し合える対等な関係作り
2	色紙作り	お世話になった先生に色紙を作る	他者への気持ちの伝達 他者との調整を意識したもの作り

他者とのかかわりを意識した取り組みとして「話し合い(作戦会議)」を実施した。その際、スタッフが司会を務めながら、全対象児が発言できる環境を設定した。

対象児の活動の様子をビデオカメラで記録し、映像を基に対象児の会話や様子の分析を行った。

結果

各月の活動におけるB1とB2の様子を表2に示した。

表2 各月の活動におけるB1、B2の様子

月	場所	B1		
		話し合い前	話し合い中	話し合い後
10	屋外	練習時、大人しくB2の意見を聞き従った。本番時は、ベアの先生とうまく連携が取れずこけてしまい、悔しそうな様子が見られた。	実践練習をしようとB2に呼びかけた。本番1回目の反省を踏まえ、走り方や曲がり方に関する案を出し丁寧にそれらを説明した。	作戦会議での練習通り、こけることなく見事に走りきった。
1	屋内	周りのメンバーのぎやかさに圧倒され、楽しめられていない様子が見られた。	先生からの「指示の出方」に対する助言をしっかりと聞いていた。	「ここ」ではなく「Oくんから見て左」など相手の立場に立った指示ができた。
2	屋内	はしゃぎながらメッセージを書いた。珍しくふざげ続けた。	メッセージ以外にイラストを色紙の隙間に描くことを思いつく。	B2に声をかけ、役割分担を行い先生へ感謝のイラストを書いた。
月	場所	B2		
		話し合い前	話し合い中	話し合い後
10	屋外	練習時、力加減やスピードの調整にこまらなかつた。本番ではベアの先生とベースを合わせられず転倒。悔し気な発言あり。	B1の指示を聞き、それらの実践をひたむきに挑戦した。B1の案に加え、交代時の受け取り方への意見を述べた。	走り方、曲がり方、受け取り方のいずれにおいても練習通りの走りを見せた。
1	屋内	他児が指示するタイミングで口を出すことが多かった。遊びに夢中になると、周りの声が聞けていなかった。	納得のいく顔が作れるよう、先生チームとパーツの入れ替えを行った。先生に対して敬語を使ってお願いできた。	B2の「審査員の好みに合わせた置き方しよう。」という意見を聞き実行する。
2	屋内	時間をかけながら、丁寧に先生へのメッセージを作成した。	色紙の下部に大きく「OO先生ありがとうございました」と書く案を出した。	B1と連携を取りながら色紙作成に励んだ。ふざげすぎるメンバーに指摘できた。

考察

本研究の結果から、「話し合い(作戦会議)」の時間枠には、①コミュニケーションの機会が増える、②自分の考えを伝えやすくなる、③他児の話を取り入れやすくなるという3つの効果があると考察した。「話し合い」という他者の考えを聞く枠によって聴取の機会を得た対象児は、話し合い前にできなかったことを仲間とともに乗り越えられたと考えられた。一つのことを仲間と共有し、試行錯誤の上で達成感を味わえたと推察した。

*本研究は立命館大学人間科学研究所の療育プログラム開発プロジェクトの一環であり、立命館大学の研究倫理の指針に基づいて進められている。研究発表にあたってはプロジェクト参加児の保護者の同意を得ている。